

令和5年度 しらとり保育所 保育所の自己評価

保育所は、地域の皆様や保護者の皆様とのパートナーシップのもと、子どもの健やかな育ちを保障しよりよい保育を展開していくために、保育所の保育内容等について客観的に自己評価を行い、多様な観点で振り返りながら、継続的に保育の質を向上させていくことが求められています。しらとり保育所では、保育の改善・充実を図るとともに、一人一人の保育士等の資質・専門性や職員間の協働性をより高めていくため、自己評価の取組を進めています。また、自己評価に取り組む過程での対話・交流や結果の公表を踏まえて、保護者や地域社会と保育についての理解が共有されることが望まれます。今後も、保育内容等の評価に関する一連の取組を通じて、日々の保育がより充実したものとなり、子どもたちの豊かで健やかな育ちを保障するべく努めてまいります。

1. 保育の質の向上

| 課題 | 評価項目の達成及び取組状況 | 今後の課題及び取組 |
|--|--|---|
| 保育計画は、子どもの成長段階を見直し、定期的に話し合っ立案する。 | 年間保育計画を期ごとに振り返り、見直しをもって保育しています。毎月、保育の振り返りと計画を話し合い、全体的な計画と指導計画を連動させています。ICT化で保育計画の様式が変わったことにより、担当クラスの保育内容のみならず、他クラスの内容についても見やすくなり、保育の連続性、連動性が取りやすくなりました。 行事を見直し、運動会は3歳未満児と以上児とに分かれて実施しました。未満児の運動会は初めての試みでしたが、意義をおたより等で保護者に伝え、発達に合った内容となりました。年度末には、年間行事を振り返って在り方を協議し、次年度の計画立案を行いました。 | 行事におけるねらいや保育方針について保護者に丁寧に伝えていきます。また、参加人数や時間制限の緩和について検討し、行事の在り方を見直します。 保育計画の立案において、クラス保育に関する月ごとの振り返りの時間を確保し、翌月に反映します。 |
| 自己評価を通して課題を見つけ、改善する。 | 職員一人一人が自己評価を行うことにより自分自身の保育について振り返り、課題を意識して改善につながるよう努力しています。また、保育所の自己評価について職員間で話し合い、次年度の取組に活かしています。 保育所内だけでなく地域や関係者等を対象にアンケートを実施し、より客観的な評価につなげています。 | 外部からの評価を保育に反映できるよう、行事等での関わりや日々のやり取りの中で感想を聞いたり、意見交換をする機会を設けたりして、保育に活かしていきます。 |
| 研究の充実を図り、保育に関する知識や専門性を高め、保護者等との信頼関係を築くよう努める。 | 研究グループを中心に主体的に活動する子どもの姿を心と体の両面から捉え、環境や関わりを見直しています。各グループの研究内容が連動し、充実したものとなるよう、互いに連携して研究を深めています。子どもが自ら遊んだり生活したりする環境づくりについて、日々の保育の中で今ある環境を工夫し、子どもの興味や発達に合わせて整えています。 保育参観、育児講座を実施しました。また、個人懇談を行ったほか、必要に応じて個別に面談し、保護者の思いを傾聴しながら相談に応じています。送迎時に様子を伝え合ったり、おたよりに保育内容や子どもの育ちが伝わるよう、文章と共に写真を載せたりしました。今年度おたよりをICTで配信し、写真がカラーになりより伝わりやすくなりました。 | 研究を深め、外部講師の指導のもとで研究目標に基づいた3年間の研究成果をまとめて研究発表を行います。 保護者の思いや悩みに丁寧に応じていくことができるよう、保護者アンケート等から保護者の意見を聞き取り、連携を図っていきます。 |
| 一人一人の発達に応じた関わりや個別の保育的ニーズに応じ、環境を整え保育内容や方法に配慮する。 | 外部講師を招いたインクルーシブ保育研修を実施し、性教育について全職員で学びました。事例を挙げて少人数のグループで話し合う機会があり、学びとなりました。 行政と連携し、医療ケア児を受け入れる体制を整え、保育しています。保護者と細やかに連絡を取り合い、保育所全体で情報を共有しています。保育士、看護師、調理担当者などと発達に応じて支援を考え、育ちを支えています。 子どもの主体性や意欲を大切にしたい関わりについて、職員皆が一人一人に合わせた対応を心がけています。また、所内で支援会議を定期的に行い、職員間で個別の支援について共有しています。 | 全職員を対象にインクルーシブ保育に関する研修を実施します。個別の保育的ニーズのある内容を組み込み、グループで話し合うことで学びを共有していきます。一人一人の育ちや良さ、保育者の言葉かけや関わり方について職員間で互いの気づきを伝え合い、よりよい支援となるよう取り組みます。 |

2. 安全安心で快適な暮らしの保障

| 課題 | 評価項目の達成及び取組状況 | 今後の課題及び取組 |
|---|---|--|
| 事故や天災が発生した場合、速やかに対応できる体制がある。 | 様々な想定の実施しました。保護者に連絡し、今年度新たに夕方の時間帯に子どもたちと避難訓練を実施しました。また、非常食の活用訓練をし、緊急時の対応について確認しました。避難訓練に合わせ安全計画の内容や各種危機管理マニュアルについて周知及び見直しを行いました。子どもの出欠が不明な場合には個別に確認し、家庭と連携して安全確保に努めています。 ヒヤリハット事例及び事故記録を基に検証と分析を毎月行い、安全な環境や行事の在り方について検討し予防に努めています。ICT化により、ヒヤリハットはタイムリーに共有できるようになり、事故防止につながっています。 | 大地震や水災害等実際起こり得る想定を盛り込んだ訓練を計画します。また、ヒヤリハットを重点的に検証し、事故防止を強化します。 交通事故、車内置き去り事故、誤嚥事故、生命の安全教育等について職員の危機意識を高めるとともに、子どもたちへの指導や保護者との連携を大切にしていきます。 |
| 不審者の侵入等への対策をする。 | 来訪者への対応の際には、インターホン画面で顔や用件の確認を徹底しました。また、通常の送迎者と異なる場合の連絡について保護者に周知し、安全に子どもの引き渡しを行っています。 警察署と連携し、不審者対応の模擬訓練を行いました。警察署からの指導のもと、日頃から留意点を意識して保育にあたっています。 | 警察署の指導のもと、様々な想定での不審者対応訓練を行い、万が一に備えます。 |
| 虐待等、不適切な養育が行われている可能性があると感じた場合は速やかに適切な対応をする。 | 子どもの様子や親子関係、身体や衣服の状態等に注意を払うとともに、職員は自己評価を通して自身の言動を振り返っています。人権に関する所内研修を行ったり、職員間で人権擁護のセルフチェックをしたりし、子どもの人権に配慮した保育について意識を高めています。必要に応じて関係機関と連携をとる等、虐待防止に努めています。 | 不適切な養育や不適切な保育等、子どもの人権に関する所内研修を行ないます。また、虐待防止マニュアルの周知を図るとともに、人権擁護のためのセルフチェックを定期的に行います。 |
| アレルギー疾患や体調不良の子どもがいる場合、子どもの状況に応じた食事を提供する。 | 幼児食への移行時期には、保護者と細やかに連携をとり、食品チェック表を基に子どもの発達や様子に合わせて進めていくようにしています。特に、移行食や食材ごとの形状については、一人一人に合わせて対応しています。 食物アレルギーの対応については、食材チェック表を用いて保護者・調理担当者・保育士で確認しています。より確実な食事提供を行うため、調理担当者と保育士間で気付きや意見を伝え合っています。味や見た目を工夫し、アレルギー食材を使わない献立作りにも積極的に取り組んでいます。 | 安全な食提供のため、特に移行期では家庭と細やかに情報共有しながら進めていきます。 食物アレルギーへの対応について、除去品目に配慮した献立の工夫を今後も検討していきます。 |
| 食中毒や感染症に対する予防および発症後の対策を適切に行う。 | 児童および職員は毎日体調確認を行っています。子どもにも手洗いを丁寧に指導する他、保育室や玩具の消毒の徹底、テーブル配置の工夫、職員のマスク着用を行っています。感染症の状況等を考慮しながら安全に食育活動が実施できるように工夫しています。 食中毒・感染症予防の所内研修やコロナ発生時想定訓練を実施しました。所内研修では、主に魚類のヒスタミン中毒について職員間で確認し、検食の際等に気を付けています。 感染症の流行状況や拡大防止対策について玄関掲示やメール配信を行い注意喚起しています。 | 食事空間や栽培活動、旬の食材に触れるなど、食につながる活動や楽しく食事をする方法について再度検討していきます。 感染症拡大防止対策を状況に応じて行っていきます。 |
| 子どもが安全で心地よく過ごせるような空間を確保し、工夫する。 | 子どもが主体的に行動するための保育環境について、計画的に職員会の議題に挙げ話し合いました。研究グループを中心に、共有スペースの活用について検討しました。1階ホールの運動遊具を定期的に検討し、いつでも遊びに使用できるようにしたことで発達に合った運動遊びの機会が増えました。コロナ禍で制限していた玩具の素材について見直し、布や毛糸で手作りした人形やかばんを取り入れ、遊びに広がりが出ました。また、所庭には子どもの発達や興味に合わせて草花を植えました。猛暑により、枯れたり所庭で遊ぶ機会が少なかったりしましたが、遊びや制作等に取り入れしました。また、所庭の可動遊具を活用して意図的に日陰や基地をつくと、子どもが落ち着いて過ごせる場所になりました。 毎月安全点検を行い環境を見直すことで、安全で生活しやすい環境に近づけることができます。 | ものを大切にする気持ちを育むため、職員がSDGsについての意識を高め、共通意識をもって子どもにも伝え、みんなで取り組んでいきます。 所庭での遊びを充実させるため、職員間で話し合い可動遊具や玩具、教材や素材等を定期的に入れ替えます。 日頃行き届かない部分の清潔を維持するためクリーンタイムを設け実施します。 |

3. 地域とのつながりの強化

| 課題 | 評価項目の達成及び取り組み状況 | 今後の課題及び取り組み |
|--|---|--|
| 保育所が地域の子育て支援の拠点となるよう、地域の子育て家庭に対する支援の充実を図る。 | <p>保育所開放「なかよし広場」を年12回計画し、実施しました。地域の子育て家庭のニーズに合わせて『0歳の会』を計画する等、内容や時間を充実させました。助産師と連携をとりながら、参加者のニーズを把握し、相談に答えています。</p> <p>一時預かり保育については、低年齢の子どもの利用希望が増える傾向で、年齢や発達に合わせて遊びの内容を計画したり、他クラスと連携したりしながら保育しています。一時預かりクラス対象に「わくわく参観日」を年2回計画し、保育所での様子を見てもらう機会となりました。一時預かり保育のチラシを新たに作成し、近隣の施設や店舗に置いてもらい、利用につながっています。</p> | <p>「なかよし広場」は、地域の子育て家庭のニーズに応えられるよう、保育所の生活の雰囲気やより感じられる活動や給食試食等内容を検討して実施します。</p> <p>一時預かり保育は、近隣の支援センターと連携を取り合ったり、検討チームにおいて、利用者のニーズや個々の状況を共有したりして、地域の子育て支援に役立つ内容を話し合います。</p> |
| 保幼小連携の必要性を理解し、つながりを強化する。 | <p>小学校や近隣の保育施設に保育を公開したり、近隣の保育施設の公開保育に参加し、保幼小の連携を深めました。また、小学校の音楽会に出かけ、小学生との交流を通して子どもが小学校を身近に感じる機会となりました。保幼小連携の必要性を明確にするため、小学校と交流の意図を共有しました。</p> <p>育了児お楽しみ会を開催したことで、就学後の児童の様子を知る機会となりました。</p> | <p>小学校や近隣の保育施設に研究保育を公開し、連携の目的を共有することで職員間の交流を図ります。</p> <p>子どもが小学校を身近に感じられるよう、近隣の保育施設と連携し小学校等に出かけ、5歳児同士や小学生と交流する機会をもち、積極的な交流が実施できるよう取り組みます。</p> |

4. 職員の確保と育成

| 課題 | 評価項目の達成及び取り組み状況 | 今後の課題及び取り組み |
|-----------------------------|---|--|
| 実習生や新任保育士への指導やサポートをする体制がある。 | <p>今年度は実習希望がなく、実習生の受け入れがありませんでした。</p> <p>全職員を対象に所長との職員面談を年2回実施し、一人一人をサポートできるよう努めました。新任職員や経験の浅い職員と積極的に声を掛け合ってコミュニケーションをとり、相談しやすいような雰囲気づくりを心掛けています。</p> | <p>積極的に実習生を受け入れます。</p> <p>新任職員には、指導担当者を決めることで、相談したり支えたりしやすい体制をつくります。</p> |
| 法人及び保育所の魅力を様々な方法で発信する。 | <p>法人のホームページやInstagramを活用し、保育所の情報発信や求人掲載を行いました。保育所の生活の様子や入所に関する情報が見えやすくなるようホームページの内容を見直したり、情報がタイムリーなものとなるよう更新したりしました。また、効果的な求人情報となるよう、Instagramに働く職員の雰囲気が伝わる写真を定期的に載せました。</p> <p>多くの人に保育所の魅力を発信するため、保育所のパンフレットをリニューアルしたり、地域の商業施設や観光施設のイベントに参加し、ケーブルテレビや新聞社等の取材を受けたりしました。</p> | <p>効果的な求人情報となるよう、Instagramに定期的に掲載します。入所を考えている方に興味をもってもらうことができるよう、ホームページの構成を検討したり、掲載情報や写真を新しいものに更新したりします。</p> <p>地域のイベントに参加したり、テレビ各局や新聞社などへ取材を依頼したりするなど多方面に働きかけ、保育所の魅力を発信します。</p> |
| チーム保育について理解する。 | <p>前年度の研究をもとに、年度初めに研究目標を明確化し、保育所全体で研究に取り組みました。チーム保育研究グループが中心となり、ワールドカフェ方式を用いた実践的な研修を行う等、保育所の実態に応じたチーム保育の在り方を検討しています。</p> <p>地域の人材や資源もチーム保育における大切な一員と捉え、保育所全体で地域とのつながりを意識し、新たな地域交流活動を行い、交流が広がりました。和太鼓交流会では、地域の方から「素敵なお演奏だった」と声を掛けていただきました。また、青果店の方を保育所に招いて子どもたちに果物についての話をしてもらうことで、地域の中で子どもを育てていくことの大切さを実感しました。</p> | <p>地域の中で子どもを育てていくことについて話し合いながら、その意図を職員間で再認識し、一方通行の交流とならないよう、つながりを深めていきます。</p> |
| 研修に参加し、積極的に学ぶ。 | <p>外部講師を招き、様々な分野について所内研修を計画的に行いました。実技研修講師を招いた音楽遊びに職員も子どもと一緒に参加し、実践的な学びとなりました。外部研修は、他施設の公開保育研修が再開し、学びとなりました。職員が関心のある内容や今までに参加したことのない内容の研修等を選んで参加でき、また、リモートでの研修も多く、参加できる機会が増えました。</p> <p>所内研修では、職員一人一人が主体的に学べるよう少人数のグループに分かれ、意見を伝え合う形式の研修を多く取り入れたことで、活発に意見交換ができ学びが深まりました。全職員が研修に参加できるよう、同じテーマの研修を2回実施しました。</p> | <p>リモート研修や動画配信等を有効活用し、多くの職員の学びの場を確保します。</p> <p>様々な専門分野（造形・自然環境）の講師を招き、保育に活かすことができるよう実践的に学びます。</p> <p>職員が主体的に学べるよう、職員を講師とした研修やグループワークを中心とした研修を継続していきます。</p> |

5. 働きやすい環境づくり

| 課題 | 評価項目の達成及び取り組み状況 | 今後の課題及び取り組み |
|---------------------------------|--|---|
| 日々の業務を見直し、改善を図る。 | <p>職員一人一人が抱えている業務を見える化し、進捗状況に合わせ優先順位を決めてノンコンタクトタイムを活用し、業務にあたっています。午睡の時間等集中して保育事務にあたる時間や場を確保するようにしていますが、会議や研修、保育環境整備等、様々な業務への時間捻出により、時間的な余裕がない状況です。</p> <p>ICTを導入し、検討チームを中心に課題について協議しながら活用を進めています。子どもの出席状況が分かりやすくなり、身体測定や健診のお知らせ、集計などの業務が効率化しました。職員誰もが基本的な操作ができるようになることや、さらなる有効活用に向けての検討が必要です。</p> | <p>業務の効率化の状況や保護者への影響を考慮しながらICT化できる部分を毎月協議していきます。</p> <p>ノンコンタクトタイムを確保していくため、おたよりノートや保護者へのお知らせ方法を見直し、試行していきます。</p> |
| ハラスメントに関して理解する。 | <p>ハラスメント防止研修に参加し、様々な場面で起こり得るハラスメントについての知識をもち、意識を高めています。所内研修において、職員同士でグループワークを行い、価値観や優先順位の違い、様々な思いや考えがあることを肌で感じました。</p> <p>職場内や保護者と話す時にも、一人一人の職員が互いの立場を理解して話す等、気を付けています。</p> | <p>職員一人一人が自分の感情のコントロールをしたり、互いの立場を理解したりできるよう、所内での研修を継続して行い、ハラスメント防止に取り組みます。</p> |
| 職員同士のコミュニケーションを活発にし、チームワークを高める。 | <p>雇用形態ごとに意見交換会を行いました。日頃会議等に参加することの少ない職員も参加し、同じテーマについて互いの気付きや考えを活発に話し合いました。</p> <p>感染症の状況を見ながら少しずつ他クラスとの交流をもっていますが、階が違ったり他クラスの様子が変わりづらい状況です。クラスだよりに目を通したり、会議等で各クラスの状態を伝え合ったりして情報共有の方法を工夫しています。</p> <p>各クラスにおいて保育内容を話し合ったり、他クラスと共通の活動については、ホワイトボードを活用して情報共有し、協力して保育しています。保育所全体で協力し合う意識や体制ができていると感じます。</p> | <p>クラス運営や連携の在り方について各クラスで振り返ります。職員間のコミュニケーションを活発にするため、意見交換会の内容を見直し実施し、円滑な関係性を作っていきます。</p> <p>合同保育における保育士配置を見直し、保育士が担当以外のクラスとの関わりをもつことで他クラスにも目が向くようにしていきます。</p> |
| 働き方について考え、職員全体でワークライフバランスを推進する。 | <p>職員の健康増進とリフレッシュのためのレクリエーションを企画し、多くの職員が参加しました。</p> <p>休暇制度を理解し、ワークライフバランスについて職員間で語り合う機会をもちました。休暇を計画的に取得できるよう取り組んでいます。看護、介護休暇等の特別休暇の他、その他の年休取得率は、今年度は74.1%でした。</p> | <p>休暇制度を理解し、ワークライフバランスについて職員間で語り合う機会をつくります。心身の健康管理を大切に取り組んでいきます。</p> |

6. 強固な組織体制と経営基盤の確立

| 課題 | 評価項目の達成及び取り組み状況 | 今後の課題及び取り組み |
|-------------------------|--|--|
| 職員一人一人が役割をもって課題解決に取り組む。 | <p>保育所における基本的な法令や社会の動向・経営の状況について、会議で情報を共有しました。</p> <p>検討チームで取り組むべき課題を絞り、見直しをもって取り組みました。職員がそれぞれに役割を担ったことで業務は増えてきましたが、職員が主体となって様々な意見や考えを出し合い、前向きに検討することができました。</p> <p>毎日の職員配置については、副主任保育士が中心となって連絡調整をし、連携強化につながりました。</p> | <p>人権や個人情報保護等、社会の動向に意識を向けられるよう、最新の情報を職員間で共有します。</p> <p>内部の連携を強化するため、ミドルリーダーがクラスの体制や業務に応じた声かけを行うとともに、職員一人ひとりが協働する意識をもち、報告・連絡・相談を細やかに行います。</p> |